

追悼号の発刊にあたって

ネットワーク情報学部高津信三教授の追悼号発行にあたり、故人の思い出について一言ふれさせていただき追悼号発刊の言葉とさせていただきます。

ネットワーク情報学部の学部長であった高津信三先生が亡くなられたのは平成16年10月のことである。高津先生のご病気であることを知ったのはその年の1月ごろであったかと思う。高津先生のご病気に我々一同は心配はしていたが、近年の医学の進歩に一定の信頼と希望を持っていた。夏が過ぎ9月になった頃には、高津先生が十分な治療をされもうそろそろ退院してお元気なお姿を見せてくれるものと確信していた。信じられないことであった。あまりにも早い他界であった。

今から考えてみるとその前年の後半頃から高津先生はやや元気がないようであったが、日頃、無口でおられる高津先生であったので、我々はまさにご病気であるとは存じあげなかった。2月には今後のこともあり、学部の関係者が集まりいろいろ相談したが、高津先生には当面無理をしていただかないで休養をとっていただくことにしていた。それでお元気になれるものと思っていた。高津先生を失ったことは学部にとってこれ以上の損失はない。まことに残念なことである。

平成13年度の学部設立以来のさまざまな過労や心労が重なっていたのであろう。高津先生は本学部の設置委員会の委員長であり、設立直後からそのまま学部長になられた。新学部の設立は非常に大変な仕事である。大学の中では最も過酷な仕事のひとつであるといってもいい。高津先生はそれを黙々と1つひとつこなしていかれた。高津先生には不言実行の「サムライ」の印象がある。高津先生に指導を受けた卒業研究やゼミの学生たちは高津先生に対する強い畏敬の念をもっていたことは広く知られている。

高津先生は、東京工業大学経営工学科から同大学院理工学研究科経営学専攻に進まれ、経営工学の分野で博士号をとられた。システム理論、経営工学、金融工学、オペレーションズ・リサーチなどさまざまな分野に深く通じておられ、ネットワーク情報学部の教育にとって中核ともいべきお方であった。学部では、情報ストラテジー概論、政策科学、ファイナンスプランニング、プロジェクト1、情報ストラテジー総合演習などを担当された。

高津先生は、私個人にとっては最も身近にいた同僚であった。高津先生は昭和60年4月に経営学部に入職されたが私も同じ年に同じ学部に入職したばかりでなく、二人ともシステム工学を専門分野とし、またその後何年かは同じ研究室に同室させていただいた。高津先生とは経営学部の授業である情報管理概論の教科書を共同で書かせていただいたこともある。また二人ともパソコンが好きでいろいろなことを楽しく話したことを今でもよく覚えている。高津先生はハードのことについてもかなり詳しいようであった。

高津先生の思い出は走馬燈のように駆けめぐりつきることがない。深く高津先生のご冥福をお祈り申し上げます。

平成17年9月

ネットワーク情報学部長
齋藤 雄志